

## 記者紹介

関口時正（せきぐち・ときまさ）

東京大学文学部仏語仏文学科卒業、同大学大学院人文科学研究所修士課程（比較文学比較文化）修了。ポーランド政府給費奨学生としてヤギエロン大学文学部留学（一九七四—七六）。現在、東京外国語大学総合文化講座教授（ポーランド文化）。著書に『白水社ポーランド語辞典』（共著）、訳書にJ・イヴァシユキエヴィツ著『尼僧ヨアンナ』（岩波文庫）、J・コット著『ヤン・コット 私の物語』（みすず書房）、B・スモレンスカ『ジェリンスカ著『シヨパンの生涯』（音楽之友社）、C・ミウオシユ『ポーランド文学史』（分担訳・未知谷）、編訳書に『ポーランド文学の贈りもの』（恒文社）。

阿部賢一（あべ・けんいち）

一九七二年、東京生まれ。東京外国語大学、カレル大学、パリ第四大学でチェコ文学・比較文学を学ぶ。現在、武蔵

大学人文学部専任講師。著書に『イジー・コラーシユの詩学』（成文社）、訳書にベトル・クラール『ブラハ』（成文社）などがある。

土谷直人（つちや・なおと）

一九四八年、長野市生まれ。東京大学教養学科、同大学院比較文学比較文化博士課程修了。ワルシャワ大学・モスクワ大学留学・研究出張。現在東海大学文学部教授。中東欧地域研究、比較文化専攻。著書（共著・共訳等）に、『文章の解釈』（東大出版会）、『自伝文学の世界』（朝日出版社）、『ポーランド文化史ノート』（新読書社）、『ポーランド語読本』（泰流社）、『ポーランド文学の贈り物』（恒文社）、『世界の中のラフカディオ・ハーン』（河出書房新社）、『異文化を生きた人々』（中央公論社）、『鷗外の知的空間』（新曜社）、『文学の贈物』（未知谷）、『入門比較文学』（英宝社）、『日本論の名著』（中央公論新書）、『世界俳句2005』（西田書店）など。

中村和博（なかむら・かずひろ）

一九五〇年、東京生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。小中学校勤務の後、東京外国語大学ロシア・東欧学科チェコ語専攻卒業、同大学院博士課程前期修了。語学講師、模型

作家。

久山宏一（くやま・こういち）

一九五八年生まれ。ロシア・ポーランド文学研究、ポーランド文化研究。一九九〇年、アダム・ミツキエヴィチ大学（ポーランド・ポズナン市）より文学博士号（スラヴ文学）取得。現在、東京外国語大学など非常勤講師。

平野清美（ひらの・きよみ）

翻訳業。早稲田大学、カレル大学卒業。チェコ語学専攻。主な業績―ブラハに関するコラム（読売新聞、一九九三—二〇〇〇年）、共訳『ブラハ日記―アウシュヴィッツに消えたベトル少年の記録』（平凡社）、共著『チェコとスロヴァキアを知るための56章』（薩摩秀登編、明石書店）。

大井美和（おおい・みわ）

東京外国語大学ドイツ語学科卒業。ブラハ・カレル大学修士課程チェコ語学・チェコ文学卒業。博士課程（チェコ語学）退学。二〇〇二年三月よりチェコ共和国法定通訳翻訳士。

寺島憲治（てらじま・けんじ）

一九四八年生まれ。北海道大学文学部卒業、早稲田大学大

学院博士課程終了。編著書、『エクスプレス・ブルガリア語』白水社、『The Diary of a Bulgarian Peasant Iliya Yankov for the Year 1900\* (1) Text and Notes, (2) Documents and Index, HCAA. 『イスラム教徒・キリスト教徒共住村』ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集（1）テキスト編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、訳書、D・アンゲロフ『異端の宗派ボゴミール』（恒文社）、A・サンダース『バルカンの村びとたち』平凡社など。

西野常夫（にしのみつねお）

一九五八年、和歌山県生まれ。東京大学大学院人文科学研究所博士課程単位取得退学。一九八六—八九年、ワルシャワ大学ポーランド文献学部留学。九州大学大学院比較社会文化研究院助教授。共編書に『ロシア語初級読本』、『ロシア語中級読本』（以上、東洋書店）、共著に『ポーランドを知るための60章』（明石書店）、共訳書にマレク・ハルトフ『ポーランド映画史』（凱風社）など。

小椋彩（おぐら・ひかる）

東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程単位取得退学。二〇〇一—〇二年ワルシャワ大学日本学科講師。現在、工学院大学ほか非常勤講師。ロシア文学、ポーランド文学専

攻。論文「土地の記憶と確定されない境界線―オルガ・トカルチュク『昼の家、夜の家』を読む」(『スラヴィアナ』第一九号、二〇〇四年)。研究ノート「ミチンスキの初期創作とポーランド・メシヤニズムをめぐって」(『西スラヴ学論集』第七号、二〇〇四年)。

栗原成郎(くりはら・しげお)

一九三四年、東京都目黒区生まれ。東京教育大学文学部(言語学専攻)卒。同大学大学院文学研究科博士課程中退。東京大学教授、北海道大学教授、創価大学教授を歴任。東京大学名誉教授。主要著書『スラヴ吸血鬼伝説考』(河出書房新社)、『スラヴのことわざ』(ナウカ)、『ロシア民俗夜話』(丸善ライブラリー)、『ロシア異界幻想』(岩波新書)、訳書にアンドリッチ『呪われた中庭』(恒文社) 他。

岩崎悦子(いわさき・えつこ)

一九四三年、神奈川県生まれ。東京教育大学文学部卒業。一九六八年―七〇年、エトヴェシュ・ローランド大学留学。東京外国語大学講師。ハンガリー語・文学。訳書にケルテース・イムレ『運命ではなく』(国書刊行会)、エルケーニ・イシュトヴァーン『薔薇の展示会』(未知谷) 他。編訳書にタマーシ・アロン他『トランシルヴァニアの仲間』ハ

ンガリー短編集』(恒文社)。著書に『ハンガリー語』(朝日出版社) 他。

長谷見一雄(はせみ・かずお)

一九四八年生まれ。東京都出身。東京大学大学院人文科学研究科博士課程(ロシア語ロシア文学)中退。現在、東京大学大学院人文社会学系研究科教授(スラヴ語スラヴ文学)。ポーランド文学関連の主な論文に、「レシミアンの『ポーランド伝説集』における比喩」(『西スラヴ学論集』創刊号) など、訳書に『ポーランドの民話』(共訳編、恒文社)、S・ムロージエック『象』、S・レム『虚数』(ともに共訳、国書刊行会) などがある。

村田真一(むらた・しんいち)

一九五九年、盛岡市生まれ。東京外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業。同大学大学院外国語学研究科スラブ系言語専攻修士課程修了。現在、上智大学外国語学部ロシア語学科教授。ロシア国立オムスク大学客員教授。このほか、ロシアやヨーロッパの大学・劇場で演劇論を講じる。専門分野は、ロシア演劇・ロシア文化論・比較演劇(とくに、ロシア・チェコ・イタリヤ・日本)。編著書に、『ボケットロシア語会話』(金園社)、『会話で覚えるロシア語動詞三

三三』(東洋書店)。共著に、『二一世紀の国際コミュニケーション』(三省堂)、『二世紀ヨーロッパ―その伝統を検証する』(ミネルヴァ書房)、『帝国アメリカのイメージ―世界との広がるギャップ』(早稲田大学出版部)、『都市と芸術の「ロシア」』(水声社) など。訳書に、『現代日本戯曲集一・二』、『曽根崎心中』(以上、露訳)。論文に、「演劇性の諸相―エヴレイノフ、ピランデッロ、アルトー」(儀式と芸術のはざまで―能と二〇世紀初頭のロシアのドラマツルギー)、「ハルムスとスホヴォーニコフイリンのドラマツルギー―プロットとしての舞台空間の創出」(以上、露文)、『二〇世紀ロシア演劇における台詞と仮面―エヴレイノフとブルガーコフの戯曲を例に』など。

飯島周(いじま・いたる)

一九三〇年、長野県生まれ。東京大学文学部言語学卒業。プラハ言語学派およびチェコ文学に興味を持つ。各種論文のほか、チャベック兄弟、V・ハヴェル、J・サイフェルト、J・ハシエク等の諸作品を翻訳。跡見学園女子大学名誉教授。日本チェコ協会会長。

元井夏彦(もとい・なつひこ)

新潟大学教育学部卒業。同大学院修了。クロアチアのイー

ノ・ミルコヴィッチ音楽院及びチェコのプラハ国立高等音楽院ピアノ科に留学。帰国後は演奏活動の傍ら、朝日カルチャーセンターにてチェコ文学の翻訳を学ぶ。

西成彦(にし・まさひこ)

一九五五年岡山県生まれ。兵庫県出身。東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。一九八一―八三年、ワルシャワ大学ポーランド学科留学。一九八八―八九年、ワルシャワ大学日本学科講師。現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授(比較文学)。著書に『移動文学論―イディッシュ』(作品社)、共編著に『東欧の20世紀』(人文書院)、訳書にW・ゴンブローヴィッチ『トランス・アトランティック』(国書刊行会) など。

保川亜矢子(やすかわ・あやこ)

一九五九年、東京生まれ。東京外国語大学卒。東京外国語大学非常勤講師。チェコ語学、文学。著書に『CDエクスプレス・チェコ語』、『標準チェコ会話』(共に白水社)、翻訳に『ダーシエンカ あるいは子犬の生活』(メデア・ファクトリー)、『この素晴らしき世界』(集英社) など。

津田晃岐(つだ・てるみち)

一九七二年、金沢市生まれ。北海道大学文学部(ロシア語ロシア文学専攻課程)卒業。一九九八年、ポーランド政府の奨学金でヤギェウォ大学(クラクフ)に留学。東京外国語大学大学院(ポーランド学)中退後、現在まで翻訳家として活動。専門はポーランド演劇。論文「タデウシユ・カントルの〈演劇〉」(『西スラヴ学論集』第七号、二〇〇四年)。

石井哲士朗(いしい・てつしろう)

一九四八年、横浜市生まれ。一九七五年、東京外国語大学大学院スラヴ系言語専攻修士課程修了。一九七六―七七年、ポーランド政府給費奨学生としてワルシャワ大学ポーランド文献学部で研修。現在、東京外国語大学外国語学部教授。著書に『CDエクスペレス・ポーランド語』(白水社)、共編著に『白水社ポーランド語辞典』、『微笑んでポーランド語』(東京外国語大学生協出版部)。

佐藤純一(さととう・じゅんいち)

一九三二年、東京生まれ。東京外国語大学ロシア語科卒、東京大学大学院人文科学研究所言語学科修士課程修了。東京大学教授を経て現在は創価大学教授、東大名誉教授。ロシア語を中心とするスラヴ言語文化研究専攻。主要著書は

『NHK新ロシア語入門』(NHK出版)、『基本ロシア語文法』(昇竜堂出版)、『博友社ロシア語辞典』(共著、博友社)など。

前田理絵(まえだ・りえ)

東京外国語大学ロシア語学科卒。クラクフヤギェウォ大学付属ポーランド研究所へ留学、帰国後、駐日ポーランド共和国大使館商務参事官室に勤務、新宿朝日カルチャーセンター講師を経てフリーの通訳・翻訳・語学教師。

越野剛(こしの・ごう)

一九七二年生まれ。二〇〇二年、北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。二〇〇一―〇三年、在ペルーシ日本大使館専門調査員。現在、日本学術振興会特別研究員。

小原雅俊(こはら・まさとし)

一九四〇年、福島県生まれ。東京教育大学独語独文学専攻卒、ワルシャワ大学ポーランド文献学卒、ワルシャワ大学博士課程スラヴ・ポーランド文献学中退。大東文化大学教授、東京外国語大学教授を歴任。東京外国語大学名誉教授。ポーランド語学・文学専攻。主な著書『白水社ポーランド語辞典』(共編)、ボグダン・ヴォイドフスキ『死者に投

げられたパン』(恒文社)、スタニスワフ・レム『エデン』(早川書房)、ステファン・シレジンスキ他『ポーランド音楽の歴史』(音楽の友社、共訳)。

橋本聡(はしもと・さとし)

一九五七年、東京生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程中退(ドイツ文学専攻)。一九八二―八四年、カレル大学(プラハ)哲学部留学。現在、北海道大学大学院国際広報メディア研究科助教授。言語政策論、ドイツ語・チェコ語教育、中欧地域文化論等を担当。

児島康宏(こじま・やすひろ)

一九七六年、福井県生まれ。一九九八年東京大学文学部卒業。二〇〇〇年から二〇〇二年までコーカサス諸語の研究のためグルジアのトビリシ国立大学に留学。東京大学大学院を経て、現在、日本学術振興会特別研究員。専門は言語学。訳書にノダル・ドゥンバゼ『僕とおばあさんとイリコとイラリオン』(二〇〇四年、未知谷)。

鳥居晃子(とりい・あきこ)

一九七九年東京生まれ。東京外国語大学大学院博士前期課程在籍中。ポーランド語学・文学専攻。研究ノート「チェ

スワフ・ミウオシユの言語観』(『西スラヴ学論集』第八号、二〇〇五年)。

青木亮子(あおき・りょうこ)

立教大学文学研究科ドイツ文学専攻博士後期課程単位取得退学、立教大学非常勤講師。専門、プラハのドイツ語文学、チェコ文学。

清水美穂(しみず・みほ)

一九五五年名古屋生まれ。一九七八年、東京女子大学史学科を卒業後、八一年までサラエボ大学に学ぶ。一九八六年、名古屋大学西洋史学科修士課程修了。論文「ミリーチ・リエビブラティチと一八七五年蜂起」(『東欧史研究』第一〇号)。

田中一生(たなか・かずお)

一九三五年、北海道美唄(びばい)市生まれ。一九六〇年、早稲田大学露文科卒業。一九六二―六七年、ベオグラード大学にてビザンチン美術史を学ぶ。帰国後は大学講師、出版社勤務、翻訳家として今日に至る。

本藤恭代(ほんどう・やすよ)

一九四〇年、福岡市生まれ。一九六六年、国学院大学日本文学科を卒業する。卒論は松尾芭蕉。一九八一年、V・デヴィッド博士と結婚、爾来ザグレブに住む。長年クロアチア語―日本語、日本語―クロアチア語辞典の編纂に専念している。

長與進(ながよ・すすむ)

一九四八年、愛知県生まれ。早稲田大学政治経済学部教授。専攻―スロヴァキアの歴史と文化。主な仕事―『スロヴァキア語文法』(大学書林、二〇〇四年)、『チェコとスロヴァキアを知るための56章』(共著、明石書店、二〇〇三年)、『極東地域とシベリアにおけるミラン・ラスチスラウ・シチェファーク』(『異郷に生きるII』、成文社、二〇〇三年)

中島由美(なかじま・ゆみ)

一九五一年、東京生まれ。東京外国語大学ロシア語学科卒、東京大学大学院人文科学研究科(言語学)博士課程単位取得退学。大学院在学中に交換留学生として旧ユーゴスラヴィア・ノビサド大学に一年間留学、翌年マケドニア共和国のスコピエ大学に留学しマケドニア語習得・方言調査等にあたる。東海大学、東京工業大学を経て、現在一橋大学

社会学研究科教授。主要著書『バルカンをフィールドワークする』(大修館書店)、『エクスプレス・セルビア語・クロアチア語』(白水社)など。

橋本ダナ (HASHIMOTOVA, Dana)

スロヴァキア生まれ。カレル大学東洋学日本学修士。現在、北海道大学非常勤講師(ハンガリー語)、スロヴァキア・ラジオ局、チェコ・ラジオ局外部通信員。向田邦子、宮本輝などのスロヴァキア語訳のほか、『Japan and Capital Punishment, Human Affairs(Slovak Academy of Sciences) 6/1/1996, Development of Interpretation of the Word UKIYO in Relation with Structural Changes in Japanese Society, Asian and African Studies(Slovak Academy of Sciences) 5/2/1996など』(なお、本巻の日本語訳作成に当たり難波陽子氏(札幌市)の助力を得た。記して感謝申しあげる。)

伊藤涼子(いとう・りょうこ)

一九七〇年、静岡県生まれ。東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程修了。現在チェコ語通訳・翻訳に従事。村上健太(むらかみ・けんた)

一九六三年、神戸市生まれ。筑波大学地域研究科修了

後、一九九四―一九七七年、カレル大学(プラハ)およびパラツキー大学(オロモウツ)に留学。論文「チェコ児童文学史」により、白百合女子大学より文学博士号を取得。現在、駐日チェコ共和国大使館秘書官。訳にベチシカ「ぼくだつてできるさ!」(富山房インターナショナル)等がある。

加藤有子(かとう・ありこ)

一九七五年、秋田県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程に在籍。表象文化論、ポーランド文学。ポーランド、ワルシャワ大学に留学。論文に「ブルーノ・シュルツ作品とユダヤ性―メシアという視点から」(『超域文化科学紀要』第七号、二〇〇二)、「デボラ・フォーゲル『アカシアが花咲く―モンタージュ』考察―一九三〇年代ルヴッフの造形美術家集団『アルテス』との関係」(『西スラヴ学論集』第九号、二〇〇六)ほか。訳書にスタニスワフ・レム『高い城・文学エッセイ』(共訳、国書刊行会)。

つかだみちこ(つかだ・みちこ)

東京生まれ。主な翻訳に『現代東欧詩集』、『ノアンの夏』、『シンボルスカ詩集』、『ワイダ自作を語る』(共訳)、童句詩集『ボビーの夢』二か国語版(共訳)他、著書に『キュリー夫人の末裔』、『ポーランドを歩く』等がある。二〇〇五年

ポーランド月刊文芸誌「ODRA」に「暗い絵「時」の詩二編、二〇〇六年には茨木のり子「わたしが一番美しかった時」他の翻訳、「薔薇にきく」「恐竜のように」他が掲載される。一九九一年度ボズナニ国際詩祭賞、二〇〇三年グダニスク市長、同市立図書館よりポーランド文学紹介の功に対し、表彰される。二〇〇四年ポグージェ国際文学祭大賞、またポーランド詩祭の日本への紹介により二〇〇五年ガリチア秋の文学祭大賞受賞。童句詩誌に「妖精たちの冒険」、「森の妖精ホップクルクルの冒険」、「シヨパン」誌に「音の日記」を掲載中。

井上暁子(いのうえ・さとこ)

一九七五年、東京生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程在学中(地域文化研究・ドイツ・ポーランド文学)。論文「亡命文学から移民文学へ―ポーランド文学雑誌 *Bundesstraße* を通して」(『ヨーロッパ研究』第三号、二〇〇四)。スタニスワフ・レム『高い城・文学エッセイ』(国書刊行会)の中で文学エッセイを二篇翻訳。

田村和子(たむら・かずこ)

一九四四年、札幌市生まれ。一九七九年より一年間、家族と共にポーランドのクラクフ市に滞在。帰国後、マヤコフ

スキー学院および早稲田大学語学研究所にてポーランド語を学習。東京外国語大学研究生（一九九六―一九七七年）、クラクフ教育大学研究生（一九九七―一九九八年）としてポーランドの児童文学を学ぶ。二〇〇四年秋から半年ほどワルシャワの中学校、高校で日本文化を紹介する。主な訳書に『クレスカ十五歳、冬の終わりに』（岩波書店一九九〇）、『竜の年』（未知谷一九九九）、『ノエルカ』（未知谷二〇〇二）、著書に『生きのびる』（草の根出版会二〇〇〇）、『ワルシャワの春』（草の根出版会二〇〇三）などがある。

木村英明（きむら・ひであき）

栃木県生まれ。スロヴァキアやチェコの言語文化専攻。

高橋佳代（たかはし・かよ）

大阪外国語大学ロシア語科卒、ワルシャワ大学文学部卒。現在、ポーランド語通訳、翻訳に従事。

ポケットのなかの東欧文学——ルネッサンスから現代まで

2006年11月11日 初版第1刷発行

編者 飯島 周

小原雅俊

装幀者 山田英春

発行者 南里 功

発行所 成文社

〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町  
2-42-2-3-1015

電話 045 (332) 6515

振替 00110-5-363630

<http://www.seibunsha.net/>

組版 編集工房 dos.

落丁・乱丁はお取替えます

印刷 モリモト印刷

製本 エイワ製本

© 2006 飯島周・小原雅俊

Printed in Japan

ISBN4-915730-56-5 C0098